青梅市文化財ニュース

第291号

平成24年1月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 Tel.0428-23-6859）

森下町にのこる穴掘り代

旧青梅町の森下町には土葬だった頃の風習が今も残っています。森下町は青梅駅より西へ5分ほど行くと青梅坂があります。その坂から都バスの車庫や熊野神社辺りまでです。

昭和40年3月に現在ある二ツ塚峠途中の山あいの場所に火葬場が出来、昭和41年10月には市内全域が火葬制度になり土葬が無くなりました。次第に一軒ごとに廻ってお知らせする事も無くなり、回覧でお知らせする町内が多くなっているようですが、森下町では組内の人が亡くなると、その組の人達が手分けして一軒ずつ訃報のお知らせをして廻ります。その時「穴掘り代」として50円宛集めます。最近では留守の家が多いので、留守の家には訃報のお知らせのメモを入れて置きます。集めたお金は町内の見舞金として施主の方に渡します。

森下町には明治36年7月から町内で亡くなった人の記録（過去帳）があります。それによると明治36年から大正13年までは、亡くなった日・人・年齢・埋葬したお寺・穴掘り人足10名の名前・出不足人の名前が書かれています。大正13年9月25日の項に

「本年4月 全町協議に基づき各戸金10銭宛、組合の者にて集金シ 埋葬人夫依頼シ
ナリ 集金総額 金8円30銭也 右金額ヲ受領 人夫賃金追加分は施主に於テ支拂タ
リ」

とあり現代まで続いています。穴掘り代は穴掘り人夫賃を町内で負担してやろうという意図から始まったのではないかと思われます。そして代金は一軒当たり大正13年から昭和19年頃までは金10銭、昭和20年～22年5月頃までは金20銭、昭和22年9月～24年4月頃は金1円、昭和24年7月～昭和26年7月頃は金5円、昭和26年8月～39年3月頃は金10円、昭和39年5月～53年4月頃は金20円、昭和53年9月～平成23年12月までは金50円と少しずつ金額が時代と共に変わっています。又、昭和10年頃までは小さい子どもが亡くなった場合、穴掘り代は集めていなかったようです。過去帳には亡くなった年月日・名前・年齢・施主名や、町内見舞金・お寺の他に戒名など書いてある人もいます。初めて火葬の記述がされているのが昭和6年4月18日に亡くなった方が長淵火葬場で行い、金剛寺に於いてお葬式をしたとあります。また、昭和20年・21年には土葬や戦死の記録もあります。

現代ではお葬式もお寺や葬斎場で行う事が多く、家で行う事が少なくなり、最近では

家族葬で行い、後から町内の回覧で亡くなった事を知らせる場合もあります。

お葬式の仕方も少しずつ変わってきていると思いますが、忙しい現代でも一軒ごとに廻って訃報のお知らせをしている風習を守っていてもらいたいと思います。

(文責 儘田 小夜子)